

第八回新城薪能

とき 平成九年八月二十三日(土)
午後五時四十分始
ところ 新城文化会館はなのき広場
雨天の場合は大ホール
入場無料

能組

連吟 夜討曾我太田研司 加藤貢

今泉英三 竹内三郎
中嶋康夫 森田弘
鈴木崇史 田中洋二

仕舞 老松 猩猩 西王母

下山敬子 村木岳史 中嶋薫

火入式

新城市議会議長
新城市教育長

藤野章一
小林芳春

連管 下り羽

加藤研司 太田英三 今泉淑規

連調 東北

栗谷明生 中村邦生

小林寿枝 小高和子 小鼓平本 太刀子

(観) 連吟 海士

犬塚雅典 徳升晋

ごあいさつ 新城市長 山本芳央

連吟 湯谷 加藤佳子

金田夏代子 野沢さよ子 佐藤智子 高田育代子 和田智子 高和ゆく子 杉村直子 川野弘子 永田聡子
鈴木木芳子 谷麻朱子 水谷京子 竹下京子 星野弘子 川野直子 杉山斐子 永田聡子

狂言 三本柱

太郎冠者 安形忠久
次郎冠者 加藤賢一
三郎冠者 天野雅夫
後見 佐藤友彦

仕舞

湯谷 葛城 融

金田 夏代子
佐藤 智子
竹下 京子

囃子

狸々ナリ

大鼓 清水 俊典
小鼓 永田 六兵衛

大鼓 中嶋 慎
笛 今泉 仁美

連調

西王母

大鼓 河村 総一郎
小鼓 川野 弘子
水谷 聡子
鈴木 芳子

大鼓 中嶋 康夫
笛 鹿取 希世

独調

玉之段

中村 邦生

今岡 アイ子

仕舞

高砂 杜若ツクシ

太田 康弘
鈴木 肇

狂言 梟山伏

山伏 酒井 宏
後見 中山 伸一

兄 権田 重紘
弟 西田 好夫

能小 鍛冶

後シテ 中嶋 康夫
前シテ 今泉 英三

ワキ 竹内 三郎
大臣 清水 俊典

大鼓 河村 総一郎
小鼓 森田 收
大鼓 鈴木 崇史

問 佐野 元之助

後見 粟谷 明生
鈴木 肇

地謡 太田 康弘
竹内 省吾
栗谷 浩之
栗谷 能夫
中村 邦生

附祝言

(終了予定九時三十分)

主催 新城市文化協会
後援 新城市
新城市教育委員会
新城市観光協会

あらすじ

狂言 三本柱（さんぼんのはしら）

主人が太郎・次郎・三郎の三人に、家を新築するための柱を山へ取りにいかせる。山に着いた三人は、三本の柱を三人の者が二本づつ持つようと主人が出した謎を解くことが出来た。このうえは賑やかにと柱を担ぎ、囃子物を謡いながら帰ってくる。

それを聞いて主人は……

狂言 梟山伏（ふくろうやまぶし）

兄が弟の太郎の具合が、山から帰って来てから急に悪くなったので、山伏に祈祷して治してくれるよう頼みます。

山伏が一心に祈り始めると、太郎は急に「ポーン」と奇声を発し出す。

梟がとり憑いたのだと察した山伏は、なおも一心不乱に祈り続けるが、その結果は……

能 小鍛冶（こかじ）

一条の帝、或る夜不思議な夢で三条小鍛冶宗近に御剣を打たせよとの告げを受け、臣下の橋道成を宗近の私宅に遣わします。宗近は突然の宣旨に驚き、相槌を打つ者が無いのを理由に辞退しますが、帝の御霊夢によるものゆえ必ず作れとの重ねての宣旨に進退きわまり、この上はもはや神力を頼み申すほかに方法はないと、氏神の稲荷明神に祈るべく、身を清めて稲荷に参ります。

すると宗近の目前に一人の童子が姿を現して、御剣を打ってみよとすすめます。誰も知らないはずの宣旨を早くも知っていることさえおかしいのに、童子は数々の名剣奇譚や故事来歴をくわしく物語って宗近を鼓舞激励します。

宗近があやしんで名を問えば、汝はすみやかに帰宅して御剣を打つ支度をせよ、さすれば力添えしようと言ひ捨てて稲荷山の彼方へ消えて失せます。

やがて宗近が鍛冶場に弊帛を供え、一心不乱に祈っていると、さっきの童子が宗近の氏神である稲荷明神の姿となって現れ相槌を打ちに来てくれました。

百万の味方を得た宗近が喜びの槌をちようと打てば、稲荷明神もはったと打ち、ついに御剣を打ち上げ、表に小鍛冶宗近、裏に小狐丸と鮮やかに銘を入れ勅使に捧げて明神は再び稲荷の峯に帰ります。

薪能 (たきぎのう)

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではない。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎への信仰行事であった。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」であった。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会しうにえに鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化した。初めは寺に所属する呪師しじが司っていたが、後猿楽者が代行するようになった。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになった。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問わず誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇カ所程薪能が催されていますが、全部職分の先生方の演能であります。新城薪能だけが素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じて居ります。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

薪能の短歌・俳句を募集しております。あなたの作品を文化協会事務局へお寄せ下さい。

謡・仕舞・囃子(笛、小鼓、大鼓、太鼓)・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。それぞれの向きにお世話を致します。